

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 19日

1. 職名・氏名 講師 上木 礼子2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井大学、授与年 2005年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護管理（1単位 4年前期集中）
②内容・ねらい（自由記述） 内容:看護サービスを提供していくための看護管理の概念、看護の提供システム、看護サービスの質保証を学ぶ。質の高い看護サービスを提供するための看護職者の役割を看護管理の視点から考える。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 臨床実習を終えている学年なので、それまでの実習等で「ちょっと困った経験」を振り返ってみて、看護管理の視点から理解を拡張してもらおうワークを行った。当事者としての視点(虫の目)のほか、組織の目的など広い視点(鳥の目)、時間の流れの中で評価する(魚の目)、逆から考える(蝙蝠の目)等で学びを深めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 健康生活支援演習(1単位 1年前期(分担))
②内容・ねらい（自由記述） 内容:学習したコミュニケーション技術を踏まえて地域で暮らす高齢者との交流を行い、生活環境や人々がかかえる生活・健康上の問題について理解し看護学を学ぶための基礎力を養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 地域の高齢者と交流する前に、対象への関心を高めるために高齢者の特徴のほか、彼らの生きてきた時代背景や地域の歴史近現代の出来事も押さえて臨んでもらったので、実際の交流会では充実した内容でコミュニケーションと対象理解の時間を持つことができた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護技術（2単位、1年前期（分担）、臨床看護技術（2単位、1年後期（分担）新カリキュラム、基礎看護技術Ⅲ（1単位、2年前期（分担）旧カリキュラム
②内容・ねらい（自由記述） 内容：基礎看護技術はバイタルサイン測定と運動と休息の項目を担当。臨床看護技術は排泄の項目と呼吸・循環・体温異常の看護を担当した。旧カリの看護技術Ⅲは呼吸・循環・体温異常時の看護を担当した。ねらい：受講生がすでに学習している解剖・生理と関連して、根拠を踏まえた看護技術の基本が理解できる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・今年度は対面で講義・演習ができたがオンラインへの変更もしやすいよう講義日と演習日にかけて内容を組み立てた。講義の期間には動画教材を視聴しイメージを付けるよう促した。 ・演習は既存のシミュレーターを十分活用でき学生間に不公平が起きないようにプログラムを工夫した。実技テストを設定していたので学習意欲は高く維持できた。 ・昨年に続きロールプレイを取り入れ、グループで議論し、患者役と看護師役に分かれて考えたケアを実施するという一連の演習で、思考過程と実践の連携を体験してもらうようにした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護学実習Ⅰ（1単位、1年後期（分担）・基礎看護学実習Ⅱ（2単位、2年前期（分担） 看護マネジメント実習（2単位、4年前期（分担）

<p>②内容・ねらい（自由記述）</p> <p>内容：県内総合病院での臨床看護実習</p> <p>ねらい：基礎看護学実習Ⅰでは医療施設、看護師の役割を理解すること、基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者に対して看護過程の展開ができること。看護マネジメント実習では病院組織における看護管理とケア提供システムの運営について実際を通して理解すること。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マネジメント実習は6月7月の上旬依然コロナ感染予防対策に注意をしながら実施した。 ・ 実習先病院の方針に従い直前に抗原検査が大学でできるシステムも整え支障なく実習できた ・ 基礎看護学実習Ⅱは新規病院施設での実習を2クール担当した。1クール目で病院側の意向と学生の準備状況とで食い違う事が発覚し問題になったが、2クール目は反省を活かして学生の指導を詳細に行い安全に実習を終えることができた。 ・ 基礎看護学実習Ⅰはこの報告書記載時点でまだ実施していないが、コロナを始めとした感染症予防策を入念に指導し、学生が事故なく自立して実習に臨めるように取り組みたい。 ・ R3度は感染拡大状況を鑑みて直前にオンライン実習に切り替えた。認知症患者との家族のドキュメンタリー映画を素材にして、これから出会うであろう患者が地域で暮し医療や介護に繋がっていく過程に関して意見交換を行った。
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <p>卒業研究（3単位、4年次）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述）</p> <p>内容：看護研究へ自律的に取り組み成果を発表する</p> <p>ねらい：研究的態度、基本的な研究の進め方を実践を通して学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度はコロナに配慮し研究発表会を実施できた。調査研究を中心にひとつおりの研究過程を学ばせることができたので、目的は達成された。 ・ できる限り対面での指導をこころがけて、学生の反応を確かめながら一つずつ進めていった ・ 2名担当したが同様のテーマだったため文献クリティークにはお互いの意見を交換して学びを深めた
<p>(2)その他の教育活動</p> <p>内容</p> <p>健康生活支援演習で交流会に協力していただいた地元の高齢者グループからは交流会を評価し、継続して学生が地域と関わってもらいたいと要望がでた。</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③ その他論文（査読なし）	【 本】
④ 学会発表等	【 件】
⑤その他の公表実績	【 本】

(2) 科研費等の競争的資金獲得実績
(3) 特許等取得
(4) 学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

<p>公開講座.</p> <p>1. 福井県立大学公開講座(後期)、医療機関における外国人患者受け入れの Point of View、下記内容の対面公開講座を企画し準備したが、参加者が集まらずに中止した</p> <p>(1) 福井県の外国人患者受け入れ支援と意見交換 2022.10.9(日)</p> <p>(2) 「やさしい日本語」で診療場面会話を体験 2022.10.23(日)</p> <p>福井県国際交流協会との共催で「医療・保健従事者向け講習会」を、二見茜氏(厚労省 国立ン戦勝研究所)を講師に迎えて実施する計画を準備中(3月予定)</p>

6. 大学運営への参画

(1) 補職
(2) 委員会・チーム活動
<p>福井県立大学論集編集委員会</p> <p>看護学科内 実習検討委員会</p>
(3) 学内行事への参加
<p>オープンキャンパスオンライン 2022</p> <p>8/7 対面&Zoom ハイブリット説明会 会場支援</p> <p>8/21 在学生と受験希望者との Zoom によるリアルタイム説明会(在学生と交流) 担当</p> <p>コロナワクチン職域接種 12/20</p>
(4) その他、自発的活動など
<p>6月 実習先病院からの要望で学内でコロナ抗原検査の実施が必要となり、関係部署と連絡しながら学内にキットの配置と専用の実施場所手順等の準備と、周知を行った。</p> <p>10/8 白檜祭にて看護学科の模擬店出店に関する学生支援を行った</p>